

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1501001

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防団活性化事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防団員数		#N/A	
事業目標	110名	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計画内容	団員教育訓練・福利厚生事業 新入団員被服整備事業	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備 (アポロキャップ整備・更新)	団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	
	事業費(千円)	21,700	3,920	4,720	3,900	4,900	4,260
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	21,700	3,920	4,720	3,900	4,900	4,260	
実績事業費	事業費(千円)	19,326	3,589	3,832	3,814	4,316	3,775
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	19,326	3,589	3,832	3,814	4,316	3,775	
関連事項	(特定財源の詳細等)	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	(実施内容等) 団員教育訓練・福利厚生 新入団員被服整備	
	【評価・実績】	※前年度評価結果	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値	102名	104名	106名	108名	110名
	年度達成率	92%	81%	98%	88%	89%	
	全体達成率	17%	34%	52%	72%	89%	
事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆		

事業名	消防団活性化事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	庶務係長	安本 明志美

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	団員(町民)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防団員の確保、訓練等による組織の活性化	
【抱える課題やニーズは】	若年層の新規入団を望んでいるが、地元での就職が減少しているため、入団者対象者が少なく、消防団の魅力をアピールし、入団を促進することが課題である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防団活動が活発になる。	① 消防団員数	目標年度	平成24年度
			目標値	110人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	・消防団員数の確保(男性団員100名・女性団員10名) ・消防団員の技量向上	② 訓練回数	実績値	102人
			達成度	92.7%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	広報活動	雄武町広報紙及び、チラシ等配布		
	呼びかけ	団幹部から協力事業所等への呼びかけ		
	被服支給	新入団員に被服を支給(災害現場活動をするための特殊被服)		
	福利厚生	毎月 消防新聞を購入し配布		
	訓練費用	災害を想定した訓練時に出勤費を支給		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命財産を災害から守るため、各種訓練・研修を通じた団員の技術向上を目指す上においても必要とされる。また、団員の中も高齢化が進む中、若年層の新規入団も必要とされる。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		訓練等技術向上を目指すべく、各種研修会の出席率についてはほぼ達成されているが、団員数については110名定員のところ102名と下回り、高齢団員7名の退団に伴う若年者6名の入団、また、そのうち女性消防団員1名の入団があったことは、目標がほぼ達成されたものとする。
	<input type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		研修日数を削減し、訓練回数を増やしたことにより、団員の技術や精神面が向上し、その結果、災害現場での活動がスムーズとなり、時間短縮につながったものとする。また、団員確保に向けて町内企業に団員入団促進協力と呼び掛ける。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

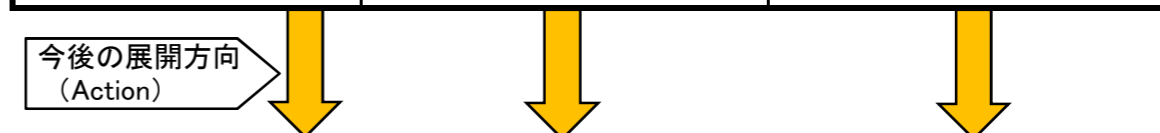
公平	判断の理由		事業は全町民を対象とした事業により、公平と考える。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
定員数110名を目標にしている中、24年度にあっては高齢団員の退団者7名に伴い、若年者の入団6名と、その中でも女性1名の入団があったことは、ほぼ目標が達成されたものと言える。この結果出席率が向上した。		



<p style="text-align: center;">継続/現状維持</p> <p>町民の防災意識の高まりや町としての防災体制の重要性を考えると、今後も継続していく必要がある。また、女性消防団員の増員を図る。</p>		
---	--	--

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1501004

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防職員教育訓練事業	見直し年度		
事業期間	平成23年度～平成24年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防職員の教育数		#N/A	
事業目標	1名	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容	
計画 内容	消防学校教育訓練事業				火災調査課程入校	危険物課程入校	
	事業費(千円)	180	0	0	0	110	70
計画 事業費	財源内訳						
	国庫支出金						
	道支出金						
	地方債						
	その他 一般財源	180				110	70
実績 事業費	事業費(千円)				99	68	
	財源内訳						
	国庫支出金						
	道支出金						
	地方債 その他 一般財源					99	
関連 事項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値				1名	1名
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	90%	0%
		全体達成率	0%	0%	0%	55%	93%
	事業進捗状況		—		☆☆☆☆	☆☆☆☆	

事業名	消防職員教育訓練事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	庶務係長	安本 明志美

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防職員資質向上、消防職員組織の活性化								
【抱える課題やニーズは】	より高度な教育を習得する場合、教育日数がかかるため全職員が習得する事が困難な事が課題である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防行政を的確に遂行し、消防力を必要とする町民等への要求に十分なサービスを提供するため、消防組織力及び職員個々の能力を向上させる必要があり、能力向上専門機関(消防学校等)への研修派遣並びに、各種訓練を施す。	① 消防学校教育	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	1人	実績値	1人	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	1人										
実績値	1人										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	消防職員の資質向上(専門的知識の習得)	② 消防学校教育(危険物科)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	24年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度	100.0%
目標年度	24年度										
目標値	1回										
実績値	1回										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	消防学校への派遣	北海道内消防職員の研修機関である北海道消防学校に2週間入校させ、危険物化学、危険物施設の規制、立入検査要領、危険物行政遂行上必要な専門的知識、技術を習得するとともに、危険物の安全管理の実務に活用できるように育成した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生命財産を災害から守るため、各種訓練・研修を通じ職員の技術の向上を目指す上においても必要とされる。また、団塊世代の退職により経験豊富な職員が減少するなかで実践的な教育訓練が必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	訓練等技術向上を目指すべく、消防学校での実践的な教育訓練を受け習得したことで、達成したものとする。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	日々の就業時間では養われない技術については、ほぼ実践に近いものが行われることから、時間短縮につながるものとする。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

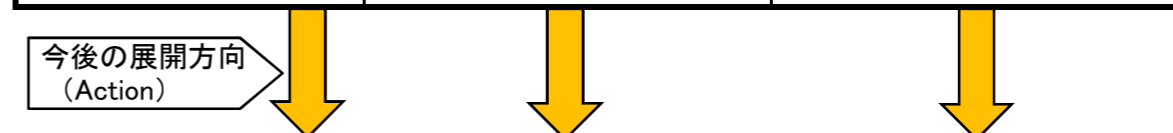
公平	判断の理由	事業は全町民を対象とした事業により公平と考える。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
団塊世代の退職による経験豊富な職員が減少するなか、現場で活動する消防職員の実践的な教育が行われ、時間短縮での教育の成果を得られたことは評価できる。		



継続/現状維持		
団塊世代の退職者が進むなか、若い職員の教育訓練は今後も必要であり、また、町民の防災意識の高揚や町としての防災体制の重要性を考えると今後も継続していく必要がある。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1501005

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防資機材整備事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防資機材整備数		#N/A	
事業目標	12資機材	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計画内容	消防資機材整備事業	空気呼吸器更新3基	消防ホース更新10本 軽量管鎗購入2個	3連梯子・救助用資機材購入 空気呼吸器予備ボンベ購入 新型インフルエンザ対策資機材一式	消防用ホース更新10本 救急資器材保守点検事業	火災用防火衣更新事業 救急資器材保守点検事業 救急資器材整備事業 デジタルカメラ一式購入事業	
	事業費(千円)	8,267	967	900	3,200	1,200	2,000
計画事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	8,267	967	900	3,200	1,200	2,000	
実績事業費	事業費(千円)	7,276	967	888	2,689	1,040	1,692
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	7,276	967	888	2,689	1,040	1,692	
関連事項	(特定財源の詳細等)						
	【評価・実績】	(実施内容等) 空気呼吸器更新3基	(実施内容等) 消防ホース更新10本 軽量管鎗購入2個	(実施内容等) 3連梯子1基 救助用資機材一式 新型インフルエンザ対策資機材一式	(実施内容等) 消防用ホース更新10本 救急資器材保守点検事業	(実施内容等) 火災用防火衣更新事業 救急資器材保守点検事業 救急資器材整備事業 デジタルカメラ一式購入事業	
		※前年度評価結果	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	※前年度評価結果 A—継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値	1資機材	2資機材	3資機材	2資機材	4資機材
		年度達成率	100%	99%	84%	87%	85%
	全体達成率	12%	22%	55%	68%	88%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	

事業名	消防資機材整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	多様化する災害に向けた消防資機材の充実								
【抱える課題やニーズは】	現在の災害は、年々複雑かつ多様化してきており、これに対応するためには消防資機材の更新及び保守点検や新規購入を実施していく必要がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	現在消防で保有している消防用資機材は老朽化又は不足しているため、災害現場において活動に支障をきたすことが無いよう、より効果的な資機材の充実を目指した。	① 防火衣更新 救急資器材保守点検 救急資器材整備 デジタルカメラ一式購入	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>平成24年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>その他特記事項</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>その他特記事項</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	その他特記事項	実績値	その他特記事項	達成度	
目標年度	平成24年度										
目標値	その他特記事項										
実績値	その他特記事項										
達成度											
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	消防の任務は国民の生命、身体及び財産を災害や事故から守ることであるため、迅速かつ適切な消防活動ができるようにする。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度											
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	<table border="1"> <tr> <td>選定会議</td> <td>職員間で資機材の選定会議を実施し、購入予定資機材の実演を行い、使い易さなどを確認する。</td> </tr> <tr> <td>消防資機材購入</td> <td>防火衣更新、救急資器材保守点検、救急資器材整備、デジタルカメラ一式購入</td> </tr> </table>	選定会議	職員間で資機材の選定会議を実施し、購入予定資機材の実演を行い、使い易さなどを確認する。	消防資機材購入	防火衣更新、救急資器材保守点検、救急資器材整備、デジタルカメラ一式購入						
選定会議	職員間で資機材の選定会議を実施し、購入予定資機材の実演を行い、使い易さなどを確認する。										
消防資機材購入	防火衣更新、救急資器材保守点検、救急資器材整備、デジタルカメラ一式購入										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	国が定める消防力の整備基準に従い、それに対応する消防資機材を常に確保(整備、点検)しておく必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	高度化する消火、救助及び救急活動に充分対応できる資機材を確保できた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	災害現場での活動が容易になる。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	消防資機材整備事業は、その資機材を使用して町民の生命、身体及び財産を災害や事故から守るための事業であることから公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

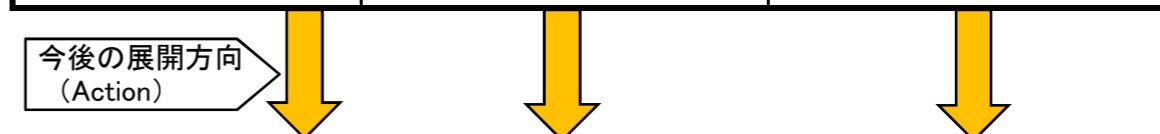
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

20年度 空気呼吸器購入 100%
21年度 軽量管鎗購入 100% 消防ホース購入 50%
22年度 空気呼吸器予備ポンペ購入 100% 三連梯子・救助資機材一式購入 100% 新型インフルエンザ対策用資機材購入 100%
23年度 救急資器材保守点検 50% 消防ホース購入 100%
24年度 防火衣更新 100% 救急資器材保守点検 50% 救急資器材整備 100% デジタルカメラ一式購入 100%

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通り事業が進んでいる。		



今後の展開方向(Action)		
継続/現状維持		
この事業は、本町消防力の水準を高めるため適切に整備していく必要がある。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1501006

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	消防施設整備事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	消防施設整備数		#N/A	
事業目標	8箇所	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加 住民協働	2	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容	
計画 内容	消防施設整備事業	消防庁舎受電設備整備		消防庁舎発電機整備	消防庁舎排水工事	消防庁舎機械室ドア改修工事 消防団第1分団詰所改修工事 消防庁舎地下タンク廃棄工事	
	事業費(千円)	20,419	2,919	0	8,000	2,300	
計画 事業費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	20,419	2,919		8,000	2,300	7,200	
実績 事業費	事業費(千円)	20,023	2,919	0	7,907	2,205	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	20,023	2,919		7,907	2,205	6,992	
関連 事項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等) 消防庁舎受電設備整備	(実施内容等)	(実施内容等) 消防庁舎排水工事	(実施内容等) 消防庁舎機械室ドア改修工事 消防団第1分団詰所改修工事 消防庁舎地下タンク廃棄工事	
	【評価・実績】		※前年度評価結果 A-終了	※前年度評価結果 A-終了	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値	1箇所		1箇所	1箇所	3箇所
	年度達成率	100%	#DIV/0!	99%	96%	97%	
	全体達成率	14%	14%	53%	64%	98%	
事業進捗状況	☆☆☆☆		☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆		

事業名	消防施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	消防施設の老朽化による設備整備及び更新	
【抱える課題やニーズは】	消防施設の老朽化等	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	消防施設を維持管理、整備及び更新することにより、防災拠点としての機能を充実させる。	① 機械室ドア改修工事 第1分団詰所改修工事 地下タンク廃棄工事	目標年度	平成24年度
			目標値	その他特記事項
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	消防業務が総合的に強化され充実することにより、町民の安心、安全が保たれる。	②	実績値	その他特記事項
			達成度	
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	機械室ドア改修工事 第1分団詰所改修工事 地下タンク廃棄工事	適切な積算に基づき、可能な限りコストの削減に努め、工事をした。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	防災拠点としての消防施設及び機能は正常な状態に維持管理されなければならないため、施設の整備は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	消防施設の機能が適正に維持管理されることにより、消防力が維持され、消防業務を円滑に行える状態が保たれている。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	適切な積算に基づき、可能な限りコスト削減に努め、工事ができた。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民の生命、身体及び財産を守る拠点施設等の整備であり、公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

20年度 受電設備整備 100%
22年度 発電機整備 100%
23年度 排水工事 100%
24年度 機械室ドア改修工事 100% 第1分団詰所改修工事 100% 地下タンク廃棄工事 100%

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
消防施設整備は計画通り進んでいる。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
今後も消防施設の整備、更新は必要である。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1501007

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	救急業務体制整備事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	救急救命士研修回数		#N/A	
事業目標	9回	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	2	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容
計 画 内 容	救急救命士養成事業 救急救命士気管挿管研修 救急救命士就業前研修 救急救命士薬剤投与研修	救急救命士養成事業 救急救命士気管挿管研修 救急救命士就業前研修	救急救命士養成事業 救急救命士薬剤投与研修	救急救命士養成事業 救急救命士薬剤投与研修	救急救命士養成事業	救急救命士養成事業
計 画 事 業 費	事業費(千円)	17,571	126	475	9,560	4,610
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	17,571	126	475	9,560	4,610
実 績 事 業 費	事業費(千円)	16,566	126	355	8,927	4,562
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	16,566	126	355	8,927	4,562
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) 【評価・実績】	(実施内容等) 救急救命士気管挿管研修 救急救命士就業前研修 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 救急救命士養成事業 救急救命士薬剤投与研修 ※前年度評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 救急救命士養成事業 救急救命士薬剤投与研修 救急救命士就業前研修 ※前年度評価結果 C-継続/現状維持	(実施内容等) 救急救命士養成事業 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 救急救命士養成事業 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	3回	2回	3回	1回
		年度達成率	100%	75%	93%	99%
		全体達成率	1%	3%	54%	80%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆	☆☆	☆☆☆☆

事業名	救急業務体制整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員(救急救命士)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	救急救命士の研修及び採用の実施	
【抱える課題やニーズは】	救急活動の充実	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	救急現場に救急救命士が出動し、重度傷病者に高度な救命処置を実施する。	① 救急救命士各種研修等	目標年度	平成24年度
			目標値	9回
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	研修をすることにより救急救命士が高度救命資器材を使用できるようになり、重度傷病者の救命率の向上、予後に抱える後遺症の軽減が図られる。	② 救急救命士新規採用数	実績値	9回
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	札幌医大研修	医師の指導のもと研修(救急搬送患者を医師の指示のもと処置を実施)を実施(24年度 6回 6名)		
	道北ドクターヘリ事例検討会	医師の指導のもとドクターヘリに関する事例を検討する研修(24年度 2回 4名)		
	札幌医大事例検討会	医師の指導のもと救急搬送に伴う事例を検討する研修(24年度 1回 4名)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	現有救急救命士の生涯研修及び実習は義務付けとなっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		現有救急救命士の生涯研修及び実習は達成できた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		現有救急救命士の生涯研修及び実習を受けたことにより、町民に対し高度な救急処置を実施できる資格を取得した。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		救急救命士の資質向上を図ることにより、重度傷病者に対し高度な救命処置が実施できる。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

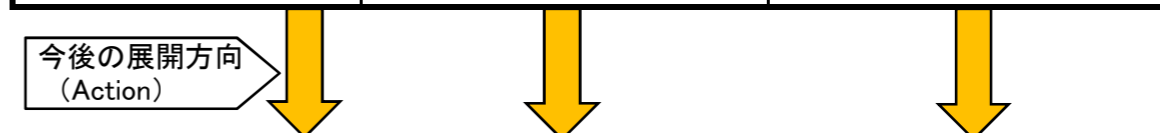
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
救急救命士の研修については、手技の向上が認められるため、今後も必要であると考えます。		



<p>今後の展開方向(Action)</p>	<p>継続/現状維持</p> <p>継続してこの状態を維持していかねばならないが、新規採用者にあつては、今後の退職者を考慮し広く求人をする必要があると考える。 町民にとって高度な救急活動を行うことによって、安心できる町づくりを目指すには、継続事業であることが適当である。</p>
------------------------	---

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1501008

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	A	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	4 法定自治事務	
事業名	消防救急無線デジタル化事業	見直し年度		
事業期間	平成24年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	整備数		#N/A	
事業目標	1回	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	2 電波法	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容	
計 画 内 容	消防救急無線デジタル化整備					基本設計調査業務委託	
	事業費(千円)	3,000	0	0	0	3,000	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	3,000				3,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,008	0	0	0	1,008	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	1,008				1,008	
関 連 事 項	(特定財源の詳細等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】					基本設計調査業務委託	
		※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値					1回
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	34%
	全体達成率	0%	0%	0%	0%	34%	
	事業進捗状況	—	—	—	—	☆☆☆☆	

事業名	消防救急無線デジタル化事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	国の電波法関係基準の改正により、消防救急無線が現行のアナログ方式からデジタル方式に移行しなければならない必要性があること。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	国が進める消防救急無線のデジタル化整備を行う事により、消防業務の円滑化を図る。	① 基本設計調査業務委託	目標年度 平成24年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	従来のアナログ方式からデジタル化する事により、無線通話の秘匿性が向上し、また音声通信からデータ伝送が行われる事など、消防活動に対し質の向上及び強化が図られる。		目標値 1回
			実績値 1回
			達成度 100.0%
		②	目標年度 年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	基本設計調査業務委託	基本設計に向けて、組合内で担当者会議をかさね、整備費用の低減化に努めた。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	国の電波法関係基準の改正に伴い、アナログ方式の消防救急無線を平成28年5月31日までにデジタル方式に移行しなければならないため、更新整備を行う。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	無線通話の秘匿性が向上し、また音声通信からデータ伝送が行われる事により、消防活動に対し質の向上及び強化が図られる。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	消防組合全体での整備となり、按分して負担金を決定していることから適正と考える。又、各支署より担当者を選出し、組合内で低減化に向けての会議を行っている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	大規模災害時等の適正な消防通信を確保するため、デジタル化するものであり、公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通り事業が進んでいる。		

今後の展開方向 (Action)		
継続/現状維持		
消防救急無線は平成28年5月31日までにデジタルへの移行を完了させなければならない事業であること。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止